

大宮小学校の教育 ～「答えを覚える学習」から「問いを見つける学習」へ～ 大宮小学校

本校では、国際バカロレア（IB）教育を通して、子どもたちが自ら考え、学び続ける力を育てています。本校は、IB認定校となって6年目を迎えました。IB教育の特色の一つが、教科の枠を超えたテーマについて学ぶ「ユニット学習」です。世界のどの地域でも共通する課題やテーマについて、子どもたちが自ら問いをもち、探究的に学びます。学習の過程では、必要な情報を集めて整理したり、自分の考えをまとめて発表するなど、これからの社会で求められる力を身につけていきます。また本校は、香北中学校と連携し、小中9年間を見通したIB教育を推進することで、自ら問いをたて、主体的に学び続ける子どもの育成を目指しています。ここで、ユニット学習の一例を紹介します。

「ユニット学習」の紹介（3年生） テーマ：「ものの見方の獲得が、深い理解につながる」

このユニット学習では、「わたしたちを支える仕事」をテーマに、消防士や警察官の働きや役割について探究しています。総括課題では、「消防図鑑」「警察図鑑」の作成に挑戦します。子どもたちは、「特徴」「機能」「原因」「変化」「関連」「視点」「責任」という“概念のメガネ”を使って自ら問いをつくり、教科書や図書資料、インターネットなども活用して答えを探します。さらに、解決できない問いは、見学やインタビューを通して解決していきます。このように、自ら問いをたて、解決する学びを積み重ねることで、子どもたちは主体的に学ぶ力を身につけていきます。また、概念のメガネを通して物事を多面的に見つめることで、知識の暗記にとどまらない深い理解へとつながります。その先に、社会がさまざまな人々の働きによって支えられていることに気づき、社会とのつながりや学ぶことの楽しさを実感していきます。



概念ごとに問いを作りました。
◎「警察は地域の人とどんな協力をしているのだろう」「警察犬はいつから働いているのだろう」など



自分でたてた問いを解決するために、図書資料や香美のくらしを使います。



さらに問いを解決するために、消防署に見学に行ったり、警察官にインタビューをしました。

6年生の「エキシビション」の紹介

エキシビションとは、6年生の探究の成果を、学校・保護者・地域で祝福するもので、IB校がとても大切にしている発表会です。6年生は4月から「メッセージをこめた自己表現は、ロールモデルとして他者に変容をもたらす」というテーマで、自分の興味や関心があることについて探究しています。香北中学校の生徒、地域や保護者の方々からもアドバイスをいただきながら進めています。**次のエキシビションは2月20日（土）を予定していますので、ぜひお越しください！**



1年生にも図鑑を紹介しました。1年生の学習「公共施設と人々とのつながり」にもつながります。



社会科の学習を活かし、「警察図鑑」をまとめました。



令和7年度に行われたエキシビションの様子



6月に「おしゃべり相談会」を開催し、地域・保護者・中学生からアドバイスをもらいました。

人間を大切にする ～自分らしく 自分で動き 探究する～ 香北中学校

◆ 本校の教育

令和4年12月、香北中学校は国際バカロレアMYP（ミドル イヤーズ プログラム）の認定を受けました。国際バカロレア教育は、学習者自身が疑問をもち、さまざまな視点から考えて深掘りし、理解を広げ、新たなものを創造したり、これからの生き抜く力を身につけたりしていくことを大切にしています。

令和6年度には、大宮小学校と本校の学校教育目標（人間を大切にする ～自分らしく 自分で動き 探究する～）を統一し、小中学校9年間を一貫教育でつなぐことにより、探究心や知識、思いやりに富んだ児童生徒を育成するとともに、地域を巻き込み、香北地区を盛り上げることを目指しています。



◆ 体育大会 ～探究テーマのもとに～

本校では、各行事で生徒が目指す学習者像を選択・決定し、それに基づいて探究テーマや目標を決めて取り組んでいます。体育大会の結団式では、目的や目標について全員で確認し、練習では実行委員長のリーダーシップのもと、各学年の実行委員と体育委員が協働しながら取り組みました。また、応援団長をはじめとする応援リーダーが仲間を励まし、互いを認め合いながら挑戦を重ねる姿も見られました。

生徒一人一人が自分の役割や責任を考え、仲間とつながりながら活動するとともに、自分らしさを発揮しながら全力で挑戦し、最後までやり抜く姿に、国際バカロレア教育が大切にしている「挑戦する力」「思いやり」「協働する力」が大きく育っていると感じています。



◆ コミュニティープロジェクト

コミュニティープロジェクト（CP）は、生徒自身の関心事や興味を出発点としてコミュニティー（香北町・香美市・高知県・日本・世界）に貢献するプロジェクトを立ち上げ、最後まで責任をもって取り組む探究学習として、国際バカロレア教育に組み込まれている教育課程です。

生徒は、探究活動の集大成として、この活動を通して、より現実的な思考力や行動力などが身に付き、自身の達成感や喜びだけでなく、他者の幸福や利益を呼び込むことも多く見られます。

● ウクライナ教育支援活動（私たちができるウクライナ支援 ～心と心のつながり～）

【SDGs 16 平和と公正をすべての人に】

3年生のCPの一環として、ウクライナの子どものための教育支援に取り組むチーム、「チームデュオ」が活動しています。この探究チームと英語部、吹奏楽部が連携し、4月20日の放課後に、ウクライナのジトミル州にある第25学校高等部の生徒の皆さんとオンライン交流会を実施しました。今回で3回目となる交流会のテーマは「よりよいエネルギー資源の選択」で、ウクライナにとってはチョルノービリ（チェルノブイリ）原発事故から40年という節目の年です。現地の子どものためのプレゼンテーションは、私たちの将来を考えるうえで新たな学びとなりました。また、高知に住む私たちにとっても、近く来るであろう大地震に備え、災害に負けないエネルギーシステムの構築について深く考える貴重な機会となりました。これまで交流会や支援を行ってきた学校、クレメネチ市から感謝状も届いています。本年度は、ウクライナに桜の木の植樹を含めたオンライン交流会を重ねるほか、やなせたかし記念館の別館で、ウクライナの子どものための絵画展を開催します。（開催期間：10月17日～25日）

